

赤川 貢 先生 教授就任特別講演会

日時： 2022年6月27日(月) 16:30～18:30

場所： 医学部基礎第二講義室

■講演1 16:30～17:30

座長 生体栄養学分野 教授 二川 健

徳島大学 名誉教授 (元 食品機能学分野 教授)
元 甲南女子大学医療栄養学部 教授

寺尾 純二 先生

「心血管系疾患予防における食事由来ポリフェノールの役割: 回顧と展望」

ポリフェノールは、植物の二次代謝産物として植物性食品に普遍的に含まれる非栄養素成分群である。8000種類を超える化合物が知られており、これらは重合タンニン類(プロアントシアニジンなど)と単量ポリフェノール類(フラボノイドなど)に大別される。1990年代後半からポリフェノールの機能性に関する研究が急速に進展し、健康増進や疾患予防におけるポリフェノール摂取効果への期待が高まった。心血管疾患予防へのアプローチから始まったポリフェノールの研究対象は、現在では骨粗鬆症予防、神経変性疾患や認知機能低下の予防、フレイル予防、抗アレルギーなど様々な領域に広がっている。その作用機序も、研究初期の活性酸素種を直接消去する抗酸化作用から細胞内シグナル伝達系を介した細胞機能制御作用、そして腸内細菌叢の調節作用に焦点が移りつつある。

本講演は心血管疾患予防をテーマとしてポリフェノールの機能性研究に関する歴史を辿り、その到達点を探る。さらに最近のトピックスとして、①カカオポリフェノール摂取に関する大規模ヒト介入試験(COSMOS study)、②食事由来の動脈硬化促進因子トリメチルアミノオキシド(TMAO)産生に対するポリフェノールの効果、③老化細胞選択的除去剤(セノリティック薬)としてのフラボノイド臨床研究を紹介し、今後を展望したい。

■講演2 17:30～18:30

座長 医科栄養学科長・実践栄養学分野 教授 酒井 徹

大学院医歯薬学研究部 食品栄養学分野 教授

赤川 貢 先生

「生活習慣病を予防・改善する機能性食品因子の探索と作用機構の解析」

我が国では高齢化社会の急速な進展とともに、肥満症や2型糖尿病、高脂血症などの生活習慣病の罹患率が急増している。これらの疾患は加齢だけではなく、食事や運動が関連因子であり、特に欧米化された高カロリー・高脂肪な食生活の影響が大きい。日常の食生活は糖尿病や肥満症などの生活習慣病に密接に関連しており、それらの発症要因となる一方で、食品の健康機能性を最大限に有効活用することで予防・改善にも寄与しうる。私はこれまでに、生活習慣病に罹患してから薬で治療するのではなく、日常の食生活によって生活習慣病を予防・改善することを目標にした研究を実施してきた。具体的には、食品素材に含有される生活習慣病の予防・改善に寄与する機能性食品因子を探索して同定し、その有効性を培養細胞、および動物レベルで評価するとともに、その作用機構を分子レベルで解明する研究を行ってきた。特に脂肪肝、2型糖尿病、肥満症、および加齢黄斑変性の予防・改善に効果のある食品由来成分を明らかにし、その生体成分との相互作用を基盤とした作用機序を解明してきた。

本講演では、(1)クローブによる肝細胞の脂肪蓄積抑制作用、(2)サフランの抗2型糖尿病作用、(3)食品因子によるレプチンシグナル増強作用とレプチン分泌促進作用、(4)食品因子による網膜色素上皮細胞の保護作用の4つの研究成果について概説したい。

本講演は、大学院医学研究科、医科栄養学研究科、口腔科学研究科の大学院特別講義を兼ねています。
多くの先生方、大学院生、学部学生、興味をお持ちの方すべての方々のご来聴を歓迎致します。

連絡先: 生体栄養学分野 二川 健(内線:9248)